

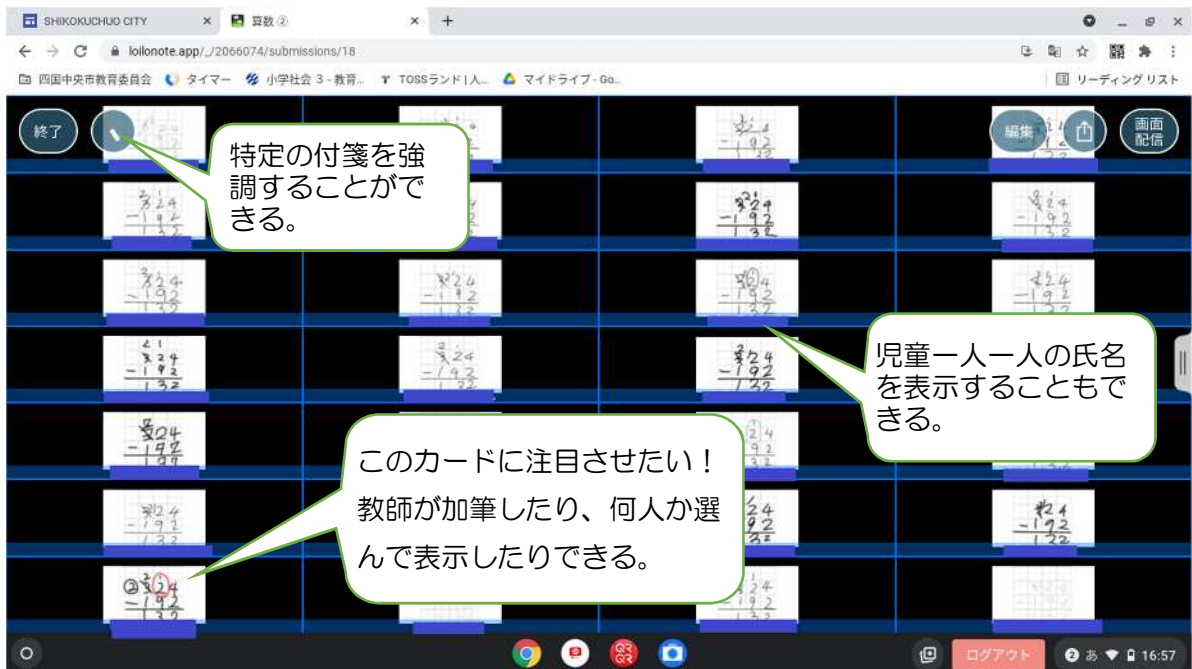
## < 事例1 >

【題材名】 3学年 算数「たし算とひき算の筆算」

【内容】 ロイロノートを使用して、情報を全体で共有して話し合い活動で活用。

【使用アプリ】 ロイロノート

【事例紹介】 教師が方眼のマス目を入れた付箋を児童に配布。児童は、筆算のやり方を手書き入力して先生に提出をする。教師が画面配信をすれば、簡単に全員で付箋を共有できるため、意見交換が可能となる。全員に注目してほしい付箋を強調したり、朱書したりすることができる。



【解説】 自分のものも含めて、全員のもものが表示されるので、大変集中して見るようになるようになってきています。また、「この付箋とこの付箋を比べて違いに気付かせる」など付箋を教師が数枚選んで意図的に表示させることで、良さや間違いなどに気づきやすくなり、理由をはっきりさせながら話し合いが活性化していると感じます。1単位時間に問題を多く解くことはできませんが、一問一問丁寧に解いていこうとする気持ちが高まったように感じます。

## < 事例2 >

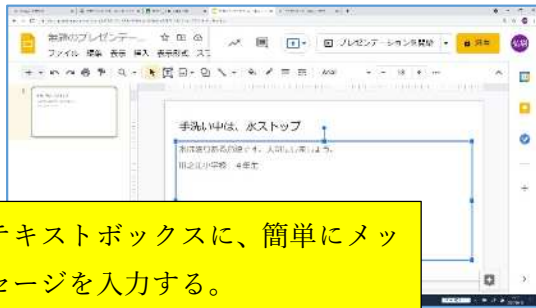
【題材名】 4学年 社会科「水はどこから」

【内容】 AIによるデザインの提案により、簡単にポスター製作ができる。

【使用アプリ】 Googleスライド

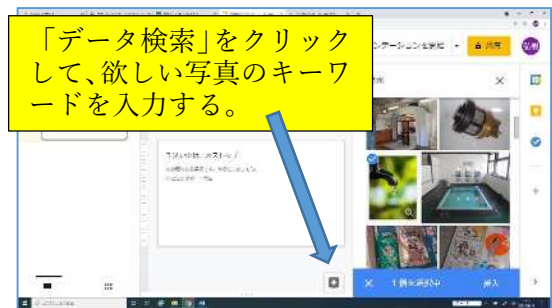
【事例紹介】 「生活に活かす」場面で、ポスターを作って家族や他のクラスへの呼び掛けを行う場合に、短時間で作成することができる。本来の「啓発」「発信」に時間を掛けることができる。

①



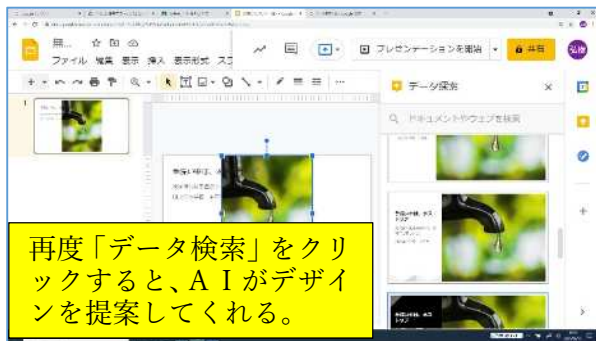
テキストボックスに、簡単にメッセージを入力する。

②



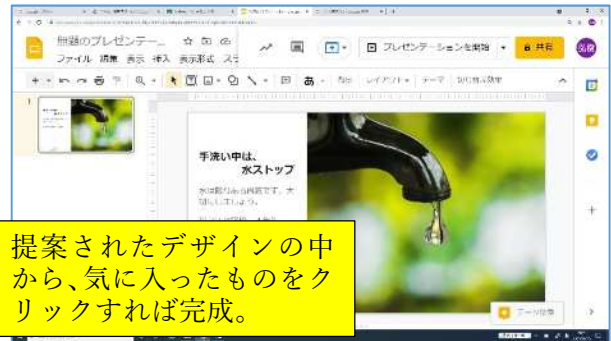
「データ検索」をクリックして、欲しい写真のキーワードを入力する。

③



再度「データ検索」をクリックすると、AIがデザインを提案してくれる。

④



提案されたデザインの中から、気に入ったものをクリックすれば完成。

【解説】 課題探究的な学習を進めて児童の意識が高まったときに、「ポスターが上手に描けない」「十分に時間を確保できない」と、どうしても意欲が低下してしまいます。デザインの技能を習得するのが目的ではないので、AIの力を借りて簡単にポスターを仕上げることで、本当に力を入れたい場面に時間を掛ける事ができます。

### 【Chromebook を活用する上で、大切にしていること】

一人一台端末のおかげで、授業の様子も大きく変わり、授業改善が着実に進んでいると感じられることが多くなりました。しかし、決して忘れていけないことは、「この授業で、児童にどんな力を身に付けさせなければならないのか」ということです。感心した一例を紹介します。

同じ時期に、2年生と5年生が植物の成長の様子を写真撮影していました。どちらの学年も、成長記録を作成するののかと思えば…。2年生の「実物を見ながらのスケッチ」では、葉の付き方が正しく認識しにくい。そこで写真に撮って、教室内で拡大するなどしながら「しっかり観察してスケッチ」して

植物の生長・観察 ……同じように写真を撮影しても



ました。写真に撮って、「ピクチャーキッズ」を活用すれば、簡単に成長記録が作成できます。しかし、ここで大切にされていたのは、「観察する力」だったのです。授業で、どんな力を身に付けさせたいのか。そして、そのためにChromebookなどのどんな機能を活用するのが有効であるか。しっかり教材研究に取り組んでいる先生方に、感心させられました。

(教育委員会主幹講評) 先生方のロイロノートでの資料提示、情報共有のスキルが向上してきているのを感じます。ICT 機器の活用は「目的ではなく手段」事例2や観察記録の取組から、目的の達成のために ICT を手段として効果的に活用している川之江小学校の先生方のスキルや意識の高さが伺えます。ICT 機器の日常づかいが更にできるように、実践を積み上げてください。